交流及び共同学習
学校間交流　実践事例紹介
～仲間と共に　一人ひとりが主役の学び合い～

交流及び共同学習の推進

●幼稚園、小・中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校等が行う、障がいのない子どもと障がいのある子どもが一緒に活動する交流及び共同学習は、「相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面」と「教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面」の両者を分かちがたいものとして捉え、推進していくことが大切です。

●誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指す中で、交流及び共同学習を積極的に進めることは、**障がいのない子どもにとっても、障がいのある子どもにとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育てる上で大きな意義を有するとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となります。**

●実施の際には、学習指導要領等を踏まえ、それぞれの学校の教育課程に位置付け、年間指導計画に基づき、**組織的・計画的・継続的に行う**ことが重要です。**参加する学校が、交流及び共同学習の意義やねらい等を理解し合い、共通理解をもって進めることが大切です。**

学校間における交流及び共同学習

●交流及び共同学習には次のような形態があります。

学校間における交流及び共同学習	小・中学校内における交流及び共同学習	居住地校における交流及び共同学習	地域における交流及び共同学習

●中でも、学校間における交流及び共同学習は、特別支援学校と、幼稚園、小・中学校、義務教育学校、高等学校等との交流及び共同学習です。

●教科等の学習や学校行事等の直接的な交流だけでなく、お手紙やお便り、作品の交換等の間接的な交流もあります。

令和７年３月　山形県教育局　特別支援教育課

村山産業高等学校又新連部＆楯岡特別支援学校高等部１年生

ねらい：お互いの活動を知り、理解を深め、踊りを通して集団活動の一体感を感じる。
地域の特色や学校の伝統に対する気持ちを高める。

・それぞれの学校で取り組んでいる「徳内ばやし」の発表会を通して交流
・校舎が隣接している立地を生かし、上記交流の他にも、他学部・他学年において交流を実施

ポイント
・それぞれの学校の「徳内ばやし」を披露することで、お互いの演舞のよさ、課題などに気づき学び合いが生まれる。
・交流及び共同学習が日頃の活動のモチベーションとなる。

〈村山産業高等学校　生徒の声〉
私たちの演舞で、楯特の皆さんが笑顔になり体を動かしてくれる姿を近くで見ることができて嬉しかった。
私たちの演舞をたくさんの人に見てもらいたいので、楯特の皆さんへ披露できたのは貴重な機会だった。

ポイント

参考資料：「交流及び共同学習ガイド」　平成31年3月文部科学省作成

●意義やねらい等について関係者の共通理解をもって取り組む
・それぞれの学校で「交流を通してどのような子どもの姿を期待するのか」を整理しましょう。
・子どもたちに対しては、事前学習等を通して意義やねらいを示すことが、実際の活動における子どもたちの主体的な活動を促すことにつながります。
・保護者に対しても、学校だよりや学校ホームページ等を活用して、情報提供を行いましょう。

●年間指導計画に位置付けて取り組む
・その場限りの活動にならないよう、事前事後学習を含めた一体的な活動を計画しましょう。

●子どもの意識や行動の変容・成長をとらえる
・交流及び共同学習の場面における子どもの姿だけではなく、その後の学校生活や学校外の生活において、子どもの意識や行動にどのような変容や成長があったのかをとらえることが大切です。
・交流及び共同学習に関する時間だけではなく、機会をとらえて障がい者理解に係る指導を継続することが教育効果を高めることにつながります。

●継続的に続けられる取組から始める
・日常において無理なく継続的に行えるものを計画することで、取組が洗練されるとともに、複数年続けていくことでノウハウが蓄積され、円滑に取り組むことができるようになります。

年間スケジュール

一例ですので、各学校の年間予定に合わせて計画してください。

準備　４～５月
内容の決定
相手校との事前打合せ
相手校への依頼

実施・振り返り　６～１月
各校での打合せ
事前学習 → 活動当日 → 事後学習
各校での反省・評価

次年度へ　２～３月
次年度に向けて相手校との打合せ
課題の改善

本リーフレットに関する問い合わせ先
山形県教育局特別支援教育課　〒990-8570　山形市松波二丁目８番１号
TEL　023(630)3286･2406　FAX　023(630)2774

このリーフレットは県ホームページからダウンロードできます

鶴岡市立大泉小学校６年生＆鶴岡養護学校小学部６年生

活動の様子を詳しくご紹介しています

ねらい：一緒に活動することを楽しみながら、友だちのよさやちがいに関心を向けて仲良く活動する。

・30 年間積み上げてきたノウハウを学校で共有しながら、毎年度子どもたちに合わせた目標を設定し、活動内容を計画
・令和６年度の６年生は鶴岡養護学校が考案したゲームやお互いの発表等を通して年に１回交流
・交流の前後でビデオメッセージやお礼の手紙等の間接交流を実施
・１年生から６年生まで継続して交流（２・４・６年：直接交流、１・３・５年：間接交流）

ポイント
・年に１回の交流を事前・事後学習や他学年での間接交流等で丁寧に補完することで、つながりが深まる。
・双方の学校の日常の学びを生かしつつ、活動内容（当日の流れ、ゲーム内容・ルール、使用する道具、教員の声がけ、雰囲気作り等）を工夫することで、子どもたち全員が楽しめるような活動になる。

〈大泉小学校　児童の声〉
・はじめは緊張したけどフレンドリーに迎えてくれて嬉しかったし、ゲームで協力できて楽しかった。みんな一人ひとりちがうけど、その人のことを知るともっと仲良くなれた。
・特別支援学校の先生は一人ひとり丁寧に関わっていた。自分も真似をしてみた。

天童市立津山小学校＆村山特別支援学校天童校

ねらい：集団の中で一緒に活動することを楽しむとともに、ルールを尊重することの大切さを理解する。
相手の困難さや課題は何か、相手の立場に寄り添って考えることができるようにする。　他

・昼休みの時間に、津山小学校の縦割り班に村山特別支援学校天童校の児童を交えて遊ぶフレンズデーを年５回実施（村山特別支援学校天童校は津山小学校内に併設されている。）
・令和６年度は村山特別支援学校天童校の教員が津山小学校６年生に出前授業を行い、次のフレンズデーに向けて、より全員が楽しめる遊びを話し合って実践

体験する → 振り返る

ポイント
・活動の間に振り返りを挟むことで、特別支援学校の子どもたちの特性等について理解が深まる。
・体験と振り返りを繰り返すことで、子どもたちが主体的に取り組みやすくなる。

〈津山小学校　児童の声〉
・天童校の友だちは初めてのことや慣れてないことが苦手だけど、自分たちも初めての場所や先生は緊張するから同じだと思った。
・普段はどんな遊びをしているのか教室に見に行ってみよう。

「一人ひとりが主役の学び合い」　２つのポイント

「それぞれの子どもが内容を理解して学習に参加している」　「達成感をもちながら充実した時間を過ごしている」

新庄市立日新中学校１年生＆新庄養護学校中学部

ねらい：同世代の生徒と触れ合う経験をもち、交友を深める。
地域の生徒がパラスポーツを通して交流することで、パラスポーツや互いの理解を深める。

・パラスポーツ（ボッチャ、カローリング）を通して年に３回交流
※日新中学校１年生はクラスごとに１回ずつ、新庄養護学校中学部は全員参加で３回実施
・交流前に新庄養護学校の教員が日新中学校生徒に対して新庄養護学校と在籍生徒に関する事前授業を実施

ポイント
・パラスポーツを題材にすることで、対等に競い合うことができる。
・事前学習で特別支援学校の学びや生徒の紹介をすることで、中学校の生徒たちが安心してコミュニケーションを図ることができる。

〈日新中学校　生徒の声〉
・新庄養護学校の友だちがどんな人たちか分からなかったし、初めての体験だったから、最初は少し心配だった。でも、交流でどんな人かを知れたし、ボッチャを一緒にやって声をかけあって、最後は楽しく活動できた。

上山市立北中学校３年生＆山形盲学校中学部３年生

ねらい：同世代の生徒と触れ合う経験をもち、交友を深める。
障がいの有無にかかわらず、集団で音楽を学び合う楽しさを味わう。

・北中学校の音楽の授業（３回）と合唱コンクール中間発表に参加
・前年度は北中学校の合唱コンクールの参観のみだったが、より充実した内容に変更

ポイント
・段階的に交流を深めることで、自然にお互いを受け入れる雰囲気ができる。
・特別支援学校の教員が最初に支援方法を伝えることで、中学校の生徒たちが自主的に実践できている。
・生徒が主体的に関わり合うことで、それぞれの学校の生徒が新たな気づきを得ている。

〈北中学校　生徒の声〉
・盲学校の先生が関わり方を教えてくれたので、一緒に活動できた。練習の時から歌詞を覚えていて、声もしっかり出ていてすごいと思った。一緒に過ごしていると、障がいがあっても、同じ人間だから変わらないと感じた。

県ホームページ上の「特別支援学校造形作品ギャラリー」で県立特別支援学校の児童生徒の作品を紹介しています。

新庄養護学校　髙橋眞矢さん

鶴岡養護学校　冨樫篤人さん

Ｘで県立特別支援学校の活動を発信中！
ぜひご覧ください